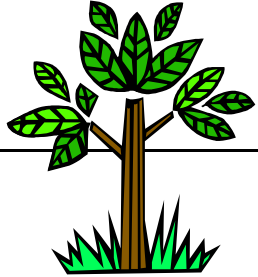
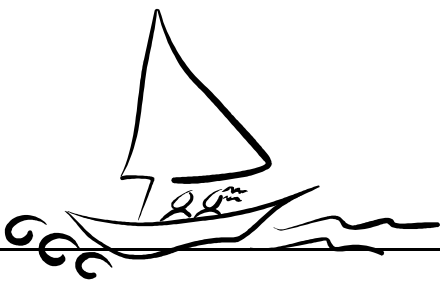



第1回巴川水系流域委員会でいただいたご意見

黒字（第1回委員会時質疑応答） 青字（今回追加）

	ご意見・ご提案	回答・対応方針
1	趣意書及び設置要領について、だれが設立するのか、河川整備計画をだれが策定するのが明確でないので、明記したほうが良いと思います。	静岡県が委員会を設立し、河川整備計画を策定するため、「静岡県」を文章に挿入します。設立趣意書、設置要領も同様です。
2	河川整備基本方針の策定タイムスケジュールや、基本方針に何を記述するかについて、説明して下さい。	本来は「河川整備基本方針」を先行し、巴川のあるべき方向性を明確にしたうえで「河川整備計画」を進めていきます。しかし、地域住民等の意見を計画づくりに反映するという観点もあるため、流域委員会の意見も基本方針の中にも盛り込みながら、「河川整備基本方針」と「河川整備計画」を並行しながら作業を進めています。
3	普通河川等においても大事な所があると思いますので、18河川以外の支流の整備についても、本委員会で討議して頂きたいと思いますが、如何でしょうか。	支流の整備については、巴川流域の水系という繋がりの中で対応していく必要があると思います。
4	巴川流域の法河川は18河川であります。流域全体を見ていかなければ、実際にいいものはできないような感じがします。	-
5	県・市で構成されている総合治水対策協議会があるかと思いますが、これも1つの連携の場になっているのではないかと思います。この協議会には「総合治水」という言葉がついていますが、治水以外の川に関する事項も協議しているのでしょうか？	総合治水対策協議会の主な協議内容については、治水対策が主となっております。この流域委員会の意見も踏まえ、今後調整を進めていきたい。
6	単独浄化槽が合併浄化槽の10倍ほど多く普及していると現地調査時に申し上げ、それが記述されておりますが、これは静岡市全体での話であり、また少しデータが古いので、巴川流域におけるデータを最新のものに更新して頂きたいと思っております。 浄化槽だけではなく、生活排水処理システムの1つとして下水道の普及も併せて調査して頂きたいと思っております。	新しいデータにしました。 また、浄化槽・下水道の普及について調査を実施しました。
6	「人と河川のかかわり」が1つの重要なキーワードになっておりますので、BOD、窒素、リンといった水質指標だけでなく、当然人が水に触れる可能性もありますので、microbial riskといった糞便汚染指標などの人の健康にかかわる項目も、ある程度注目すべき事項と感じておりますので、これらの事も検討されたらと思っております。	糞便性大腸菌群数の調査実施しました。 後程詳細報告
7	「人と河川のかかわり」が主となりますので、事務局には調査して頂きたいと思っております。	-
8	巴川改修記念碑は佐分利一嗣という弱冠26歳の技術者が巴川を測量し改修計画を立てられたと書いてあります。巴川改修工事の原点だと思っております。河川文化の発祥はまさにここにある。 (他：地域の方のお話「旧河川の必要性」)	多くの方に記念碑を知っていただく事は、巴川の治水の歴史に触れ、治水事業に理解を深めていただく事に繋がります。流域・地域での治水対策（貯留など）の啓発にも役立てたいと思っております。
9	記念碑は、教育的にも教訓としても非常に大事です。巴川河川改修の一つの原点として形づけていただくためにも、取り扱いを尊重してあげればと思っております。	-
10	利水についてですが、大谷地区にはたくさんの田んぼがありますが、大谷川からは、農業用水としての利用がないと思われまので、利用がないことを明記しておくべきではないかと思っております。また巴川水系全体においても、農業用水として利用されていることがないということを明記しては如何でしょうか。	水利権に関しては、巴川中流部の能島付近に今も利用されている箇所があるため、全く利水がないわけではないため、例えば「非常に使われ方が限定的である」などの表現にします。
11	歴史的な見地というのは、先見性を持つということだと思います。巴川の河川整備計画を検討する上で、100年、200年経ってから、「ああ、この時期にこういう人たちが、こういう仕事をして残してくれたんだ」というものが後世に残るような、治水・利水・環境の調和の取れた巴川をつくり上げていくことが大事ではないのかなと感じます。 (他：ゴールデンゲートブリッジの事例)	今回、概ね20年間の河川整備に関する計画を策定しますが、100年以上先を見据えた施設整備、適切な維持管理計画も検討します。
12	巴川水系河川整備計画におきましても、この先見性を1つのキーワードにして、皆さんに議論して頂き、いいものをつくっていききたいと思っております。	-
13	大谷川放水路について、大谷地区では受け入れに応じておりますが、それには条件がありまして、その1つに、200haの麻機遊水地です。まだ約100haしか買収が終わっていないとのこと。平成11年には大谷川放水路は稼働し始めましたが、本来ならばそれまでに200haの遊水地ができていなければいけないのです。 大谷川放水路の機能について、やはり第一義には治水があると思っております。	麻機遊水地第2工区を整備計画に位置付け、遊水地の早期完成を目指します。
14	大谷川放水路沿川の地域住民の協力なくしては、放水路の完成は、なかったらと思う。放水路には放水路の役目があるわけ。やはり放水路の第一義は何かということをとらえながら、一方で流域を広く全体的に見るといいう見方も必要ではないかと思っております。	

	ご意見・ご提案	回答・対応方針
15	<p>人口が増加して、水の使い方や暮らし方が変化している中で、治水対策全てを河川側が担うという時代ではないような気がします。河川側から流域住民に暮らし方の注文をつける時代が来たのではないかと感じます。</p> <p>大きな環境負荷を起ささないような暮らし方で、既存施設を有効活用することにより浸水被害の軽減を図る検討などを、この河川整備計画に、位置づけていく必要がある。</p> <p>景観という視点でものを考えると、主要幹線沿いや学校の近く等では、もう少し潤いがある工夫が必要だと思います。例えば大谷川放水路では、ツタなどの緑を垂らす、道路と放水路の間に小さな緑地帯でもありと少し和んだりします。また、洪水の通水断面の阻害にならないような形で少しデッキを張り出して、視線が直壁にぶつからないような工夫するとか、いろいろあると思います。町の中で重要な路線との交差箇所や重要なアイスポットなどのポイントを決めて、その部分だけでもうまく修景していく事が必要なのではないかと思います。 （他：浸水被害軽減に向け県土木・都市住、市の連携。修景は市担当者参加）</p>	<p>流域住民に対し地域・各戸での対策（貯留など）を推進や水害等に対する危機意識（ハザードマップ）を再認識していただきたいと考えます。</p> <p>既存施設の有効活用を検討します。</p> <p>潤いのある空間（放水路をはじめ、コンクリート護岸等への修景考察）の整備手法を検討するとともに、箇所の選定をします。</p> 
16	<p>全部を行政任せではなく、地域住民との対話を積み重ねながら進めていくまちづくりが良いように感じます。またそうしなければ予算がいくらあっても足りなくなってしまうと思われま。今は流域委員会ですので、治水の話が主であります。一つはまちづくりとか、都市計画の中で、河川側と地域住民とが話し合っていくことも大事なことだと思います。</p>	
17	<p>資料2の17ページに、魚の種類の下に書かれている内容が少し間違っていますので、改めて下さい。</p> <p>巴川流域は、非常に人工的な景観の河川で、潤いがないと感じられます。ところが、浅畑川で、多自然型川づくりをされた、いい空間がありますので、よさそうなところを選んで取り組んでいくことを考えてもいいのでは。</p>	<p>指摘箇所を修正</p> <p>（河川整備の実施に関する事項） 「潤いのある空間」の整備手法を検討し、環境・景観に配慮できる箇所を選定します。</p>
18	<p>河川改修工事をなさるときには、地域の皆さんの意見を十分聞き、「もう少し水辺の見えるような川にしたい」もっと水辺が見えれば、もっと水に対して関心が出てくる（川の水面が見えなくなり急速に汚れた）だろうと思いますので、河川整備計画を策定するにあたっては、親水性も考慮して頂きたいと思ひます。</p>	<p>地域の皆さんと「水辺の見える川」、「親しめる川」を研究します。</p>
19	<p>大谷川放水路の整備は上流地域に住む者にとって、かなりの利益を得ておりますし、大谷地区の方々のご協力を決して忘れてはいけないと思っております。現在、整備を進めている遊水地事業をできるだけ早く完成させていきたい。</p>	<p>麻機遊水地第2工区を整備計画に位置付け、遊水地の早期完成を目指します。</p>
20	<p>上流域には森林があり、この中には、たくさんの里山があります。山には、洪水調整機能もあるし、水源の涵養機能もあり、このような多面的機能を十分に発揮させるよう、河川側から提案すべきではないか。</p>	<p>森林の持つ多面機能を発揮させるよう、森林管理者と連携を図ります。</p>
21	<p>これまでの河川整備計画では、農業利水などについては、「利水は調整する」や「里山整備」という抽象的な言葉で収めていることが多いです。そこで、委員が述べられた部分まで入って議論していただければ、いい計画ができるのではないかと感じます。</p>	
22	<p>静岡に来た時に、「ああ、川って人間がつくるんだ」という、時代背景などにもよりますが、すごく印象深く感じました。</p> <p>大沢川は、上流部でも子供達が入れるような川ではないのです。子供たちは川で遊んだことが無く、そんなところなんか入りたくもないと感じています。現地視察で桜並木があつていい所もあつたのですが、やはり子供達が川に入れないような状態で、自然無視とまでは言いませんが、少しつくりすぎているところがあるのかなと思ひました。</p> <p>上流域、下流域の方々のお互いに意見があると思ひますが、上土で意見交換会を開催した時に、たまたま大谷地区の方がおいでになり、多くのお話をして頂き、上土の方々にもすごくわかつて頂きました。そこで、一瞬何か塊が解けたような感じがし、交流の大切さを感じました。巴川の場合は、上流と下流の様々な問題、今まで積み重ねてきた経緯など、難しい面があるかと思ひますが、流域に住む全員が一緒になって、大きな動きで考えていかなければならない。</p> <p>治水に関連する土地の開発を抑制すれば、巴川に流れる洪水も、うまく調整ができるのではないかなと思ひました。</p>	<p>「子供たちが近づける川」の整備手法を検討し、環境・景観に配慮できる箇所を選定します。</p> <p>上、下流域の住民の交流が図れるシステム（イベントなど）作りを検討します。</p> <p>開発行為を指導する部局と調整します。</p>
23	<p>「静岡は川をつくっている」という言葉は非常に印象的です。巴川も、以前は本当に自然に溢れた川だったのでしようが、恐らく都市化とともに人工的になっていったと思ひます。</p> <p>是非この流域委員会も、上流、下流、山も全部を含めて議論して頂き、全体的な川づくりをしていきたいと思ひます。また、各委員の方々も忌憚なく意見を述べて頂き、我々が向こう50年、100年を保障するぐらいの意気込みで、「川への思い」をおもい切りぶつけあつていければと思ひます。</p>	<p>自然・潤いを意識し、上下流・流域全体を考えた川づくりを目指します。</p> <p>また、将来・先を見据えた「巴川流域整備計画」を策定したいと思ひます。</p> 
24	<p>・資料15ページの治水事業 について、学校の校庭などには貯留施設があるということですが、今までに整備した貯留量を次回までにご報告して頂きたいと思ひます。</p>	<p>後程詳細報告</p>